



校外伝統行事

明日まで勝山と夏山（韻を踏んでいる…）の申込みである。お金は後から払い込むことになっているので、まだ申し込んでいない人で、参加してみようかどうか迷っている人がいたら、友だちとも相談しながら、もう一度よく考えてみよう。部活の合宿が予定されているなら仕方ない面もあるが、夏季講習もその時期には設定されていないので、担任としては、日比谷生にしか経験できないこのチャンスを、ぜひ生かしてほしいと思う。

私は勝山とスキーに参加したことがある。普段の行いがイイせいか？、どちらの時も天候に恵まれて、思いっきり楽しむことができた。ただ、この「天候に恵まれて」というのは、（夏山も含めて）かなり大切な要素ではあるのである。

勝山に行った際は、ずっ～と晴れの日が続いて、むしろ日焼けしすぎるのが心配になるくらいの毎日で、それこそ海に入るのが楽しくて仕方なかった。泳いだ後のスイカやアイスクリームも最高！という感じだったが、その前の年は曇りの日が多く、気温が低くなってしまった日には、海から震えながら上がってくるようなこともあったそうだ。

スキー教室に参加した時も、講習の行われる昼の間はずっ～と晴れていて、青い空の下、白い雪の上、美しい自然に囲まれてスキーを楽しむことができた。ただ、帰る前日の夜に吹雪いてしまって、松明滑降ができなかったのだけが心残りである。しかし、これも天候が荒れて吹雪き気味になったりしたら、かなり印象が変わってしまうに違いない。という

のも、スキー講習の場合は、インストラクターが見本の滑りを見せてくれた後、一人ずつその滑りを再現しながら滑って練習するというのが一般的なので、例えば8人班だとすると、一人30秒で見本通りの滑りをするとすれば、最後に滑る人は「30秒×7人＝約4分後」ということになり、その間、吹雪に吹きさらされながら自分の番が来るのを待たなければならないからである。（当然最初に滑った人も、到着地点で最後の人が滑り終わるまで待つわけだから、同じ時間寒い中立ち尽くしていることになる…）晴れていれば周囲の様子も分かるし、友だちの滑りを見ながら自分の滑りを反省したりできるのだが、吹雪だと視界が悪くなるし、顔を上げているのさえ辛いといった場合もあるのである。

多分、夏山も同じで、天気良ければ視界が広がって雄大な自然を堪能しながら頂上を目指すことができるのだろうが、天候が悪ければ……ということである。

しかし、それもこれら校外行事の醍醐味といえよう。普段都会に暮らしていて、いかに快適な生活に慣れてしまっているかということは、すでに宿泊体験でも経験したはずだ。自然は美しくもあるが、同時に人間にとっては厳しい存在でもある。その一端を、専門家の指導のもとで経験することは、それはそれで大きな意義があるといえるだろう。

*

卒業生が指導してくれるのは、何もそれぞれの技術だけではない。彼らが伝えてくれるもの、それは日比谷の良き伝統なのである。